

幼稚園	豊かな体験を通して、心身の調和的な発達を促し、主体的・対話的な活動の中で、自ら学び、考え、行動する力を培う。	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の発達段階に応じて、定期的に運動遊びの時間を設定するとともに、戸外で遊ぶ時間を十分に確保し、体力・運動能力の向上を図る。【週1回以上】 ・日々の活動において学級、学部単位でのPDCAを繰り返し、個々の実態や課題を共有し、活動のねらい達成に向けた効果的な手段や内容を検討し、環境構成を行う。 ・語彙の定着や概念形成につながる掲示を行い、教室環境を工夫する。 						
	豊かなコミュニケーション環境を保障し、日本語の基礎を育てるとともに、専門性の継承に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・生活全般を通して、情報保障への意識を高め、手話、聴覚、文字、音声等の様々な手段を活用したコミュニケーション活動を展開する。 ・遊びや行事の前後には「話し合い」活動を設定し、言語力の向上を図るとともに、幼児同士が経験や思いを主体的に伝え合ったり、思考を深め合ったりできるよう、教師の発問や言葉かけを工夫する。 ・保護者や経験の浅い教員を対象に学習会を開催し、手話や言葉の指導について学ぶ場を設ける。【年20回以上】 						
	温かい人間関係の中で、思いやりの心を育てるとともに、自己肯定感を高め、障がい認識の基礎を築く。	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物学習等の校外学習において、ルールやマナーを身に付けると共に、絵カード等を活用したコミュニケーション等聴者との関わり方を学ぶ機会を設定する。 ・高良内幼稚園との交流会や事前事後指導を通して、自分の障がいやコミュニケーションについて気付いたり考えたりする場を設ける。【年8回】 ・合同保育や行事などでの係や学級での日直等の仕事を通して、人の役に立つ喜びを味わえるようにし、自己肯定感を高める。 						
小学部	学力を支える語彙の拡充を目指すとともに、体力向上に向け積極的に運動に取り組む態度を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学力を支える語彙を増やし、言葉の概念形成を促すための教室環境の整備を行う。 ・児童の実態に応じた発問の仕方を考えたり場の設定を行ったりして、児童の思考が深まるような授業づくりをする。 ・体育や生活、総合的な学習の時間で、食育や体力向上のための取組を継続的に行い、ケア・トランポリン事業を効果的に活用して、家庭と連携しながら児童が意欲的に体力向上を目指して取り組むことができるようにする。 						
	発達段階に応じて、意見を発表したり話し合ったりする場を設け、実践的なコミュニケーション力を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・国語や自立活動の時間における指導を中心に、コミュニケーション力の向上を目指して、言葉を手話や指文字、書字に変換したり、相手に応じて言葉を使い換えたりする実践を伴う学習の場を設ける。 ・道徳や特別活動の学習において問題解決的な学習を取り入れたり、年に2回の児童総会で学部の課題を出し合い話し合ったりする機会を設ける。 ・児童会や委員会活動、クラブ活動や学校行事において、高学年の異年齢集団での話し合い活動を設定する。 						
	交流及び共同学習や他学部との交流を通して、発達段階に応じた障がい認識を深めるとともに、自己肯定感を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・縦割り班活動を見直し、異学年集団の活動を工夫し、子ども同士が関りながら自分の考えを深めたり、社会性を身に付けたりする機会を設ける。 ・交流及び共同学習での課題について学部で情報交換を行い、自立活動の指導と関連付けながら障がい認識の学習に繋げる。 ・中学部の弁論大会や職場体験報告会に参加する機会、中学部の生徒に質問する等の、触れ合う機会を設け、児童自身の障がい理解や進路への関心・意欲の向上を図る。 						
中学部	基礎的・基本的な知識・技能を主体的に学び、自ら活用していくための資質や能力を育む。	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の指導力向上及び授業改善のため、相互授業参観の機会を設ける。【年間1回以上】 ・自ら学習に向かう態度を育成するため、各教科担当者間で宿題の意図や内容、量の共有を行う。また、保護者にそれらを伝えて、協力体制をつくる。 ・健康的な体づくりのため、学級活動等を活用し、生徒自らが生活習慣を確認・改善できる機会を設定する。 						
	書記日本語を中心とした言語力と実践的なコミュニケーション力を育む。	<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動を充実させるため、指導内容、指導方法を学部内で共有する機会を設ける。【年間3回以上】 ・学校間交流などを通し、生徒が様々なコミュニケーション方法で他者と接する機会を設定する。【年間3回以上】 ・教員の手話力を向上させるため、学部朝礼の時間など利用し、簡易な研修を行う。【毎週1回以上】 						
	障がいを含めて自己と他者を肯定的に認識し自信と誇りをもって主体的に生きる力を培う。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒にとってロールモデルとなる成人聴覚障がい者を招く機会を学部として設定する。【年間1回】 ・生徒の規範意識や社会性の向上のため、自立活動や特別活動にてライフスキル(ソーシャルスキル)に関する授業を実施する。 ・互いの違いを理解し認め合うことができる生徒を育成するため、縦割り班での活動等、生徒同士が交流する機会を設ける。 						

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

--

評価項目以外のものに関する意見

--